

新年度公立保育所新規事業について

令和7年度

子ども・ど真ん中 新規事業

～こどもの笑顔と保護者の負担軽減のために～

1. 主食(ごはん)の提供による「完全給食」を実現

県内19市中3市目

こども

ふっくらあったかごはんをおいしく食べられる

保護者

ご飯を毎日炊く、お弁当を毎日洗うからの解放

2. 午睡(おひるね)用のベッド(コット)の導入

県内19市中「初」

こども

安全・衛生的で快適なお昼寝ができる

保護者

毎月の重い布団の持ち帰りが無くなる(荷物が減る)

3. 午睡センサーの導入 こどもの安全と保育士の負担軽減(0歳児)



1. 主食(ごはん)の提供による「完全給食」を実現

目 的

- ・冷たいご飯、食中毒などのリスクから、あったかく安全な主食を提供するため
- ・毎日の炊飯や弁当箱洗いが不要となり、保護者負担の軽減を図るため

事業の内容

- ・各園に炊飯器、ご飯碗等を整備し、3歳以上児(約420人)へ主食提供する。
- ・スケジュール(案)
 - ～8月 備品類の購入等 、9月 試行提供(無償、週1回程度)
 - 10月 本格導入(主食費徴収)

予 算

2, 983千円 (ご飯碗等、炊飯器、精米)



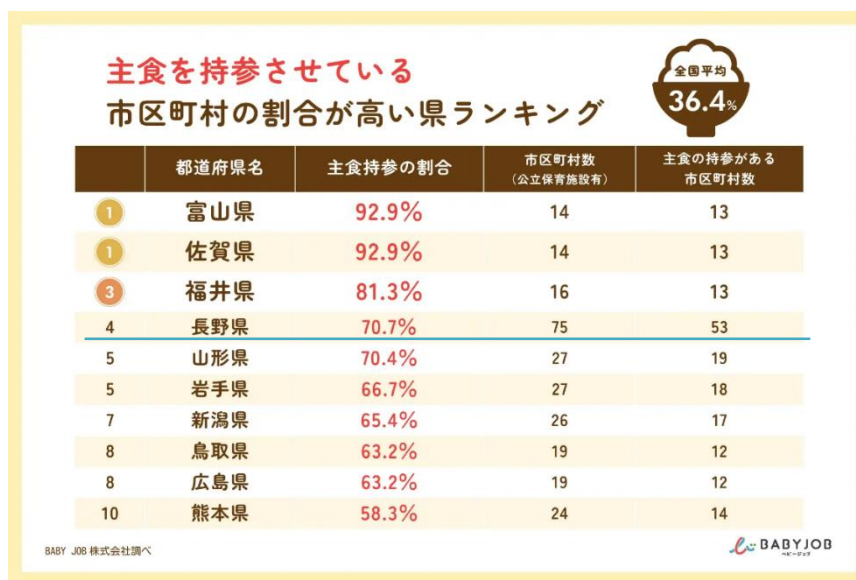
検討事項

- ・主食費(想定:1,000～2,000円) ※保護者アンケート実施後に保育所等運営審議会へ諮問予定



他自治体の状況

- 県下19市では、諏訪市が平成26年度から実施、飯山市が現在試行中で令和7年4月から主食提供を予定している
- 全国の状況をみると長野県は主食を提供していない(主食を持参させている)県としてワースト4位となっている



2. 午睡(おひるね)用のベッド(コット)の導入

目 的

- ・保育所内の安全性や快適性を高め、衛生面の充実を図るため
- ・毎月1回の重い布団の持ち帰りや布団干しが無くなることで荷物が減り保護者の負担軽減を図るため

事業の内容

- ・全公立園、全園児に午睡用コット等を導入する(7園、約660人)
- ・スケジュール(案)
～6月 コット等の購入 、 7月頃～ 順次導入

予 算

10, 155千円 (コット、収納台車等の購入費) ※国補助金活用

検討事項

- ・シーツの持ち帰り頻度や購入方法
- ・各園で状況が異なるため、コットの収納場所の確保



※イメージ



他自治体の状況

- 県下19市では導入実績なし。(令和6年度19市保育所主管課長会議資料より)
- 県外での公立園での導入も少ないが、埼玉県上尾市ではふるさと納税を活用し、平成28年度に全公立園に導入
- 市内私立園では、マリア幼稚園等が導入済、新園のさつきこども園が導入予定(R7.4)



3. 午睡センサーの導入

課題・目的

- ・午睡時のうつ伏せ寝等が原因による事故や乳幼児突然死症候群(SIDS)のリスクを軽減し、午睡時における園児の安全を確保するため
- ・保護者が安心して預けられる環境を整備するため

事業の内容

- ・各園の0歳児に午睡センサーを導入する。
- ・スケジュール(案)
～6月 午睡センサーの機器選定・購入 7月頃～ 順次導入する

予 算

2, 200千円 (午睡センサー導入費)※国補助金活用

検討事項

- ・1歳児への拡大導入について(次年度以降)

※イメージ
(取り付け型、カメラ型)

